

廃アルミから生成する「アルミ水素」の普及を進める環境ベンチャー、アルハイテック（高岡市オフィスパーク）の水木伸明社長（63）は7月中旬、岸田文雄首相の中東3カ国歴訪に同行し、経済ミッションの一員として大企業トップらとアラブ首長国連邦（UAE）を訪れた。石油やガスの輸出を国家収入の柱とする同国は脱炭素エネルギー輸出国への転換を目指しており、同社の技術に期待する。水木社長に訪問の成果を聞いた。

「UAE政府が国内産業を支援するため、5月末から6月頭にかけて首都アブダビで開いたフォーラムに招待され、政府や現地のアルミ関連企業、投資家らに技術をPRした。UAEでは11〜12月に国連気候変動枠組み条約第28回締約国会議（COP28）が開かれる。日本政府は両国間の協業が

世界への技術発信の好機とみており、当社のようなスタートアップ支援力を入れている。UAE政府の高い関心を集めたことが今回の訪問に至った」

アルハイテック社長

水木 伸明氏

アルミ水素 中東が注目

「UAEが富山のスタートアップに注目していることに驚く人も多い。」

「温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルに向け、中東の産油国は石油への依存からの脱却や産業の多角化を目指している。石油に代わる

新たなエネルギーを取り出す技術が必要となり、当社に注目したのだろう」

「訪問の成果は、岸田首相自らムハンマド大統領との会談でアルミ水素について紹介し、私もPRした。昼食会では王族や経済界の主要幹部にアルミ水素の優位性を説明した。UAE政府は石油産業に代わる新たなイノベーション産業を求めている。当社の事業に大変興味を持ってもらえた」

「ただでさえ生成に多くの電気を多く使うアルミのリサイクルは、パーシメントを加える従来の方法だと多くの化石燃料が必要で、アルミドロスと呼ばれる再利用できない不純物も出たため効率が悪い。UAEにはアルミ精錬の世界的な大企業がある。アルミからクリーンな水素を取り出す当社の技術は大きく貢献できると思っている」

「名だたる大企業との訪問だった。」

「経済ミッションには三菱商事や住友商事、三菱重工業、三井住友銀行、日本電気、富士フイルムホールディングスなどのトップが参加した。スタートアップからは水素や宇宙、生命、食料、医療などの分野の7、8社。当社が選ばれた理由はよく分からないが、日本政府の切り札のような存在だったという声も聞いた」



みづき・のぶあき 1959年旧福野町生まれ。桃山学院大経営学部を卒業後、84年トナミ運輸入社。経営企画室部長を経て2013年アルハイテックに転出。20年10月から現職。21年6月トナミ運輸退社。20年富山大で博士号（工学）取得。趣味はゴルフの打ちっ放し。南砺市在住。

会社メモ 2013年設立。17年に可搬型水素製造装置「エ小僧」を開発し、18年からレンタル事業を始めた。20年からトヨタ自動車とアルミ合金から安定的かつ連続的に水素を製造する仕組み・技術の一部の共同開発を実施。23年、アルミ水素で温浴施設のお湯を沸かす技術を確立し、脱炭素化に貢献する世界初の水素ボイラーシステム「温泉パッケージ」を完成させた。資本金4億5356万円、従業員数11人。

「脱石油」へ技術PR

「何より驚いたのは、一緒に訪問した大企業が当社の技術に興味を示し、いろいろ声を掛けてきたことだ。実務者と話をしたことがある企業もあったが、トップには情報を上げていなかったようだ」

「今後の取り組みは、COP28に合わせた展示会で当社の技術を紹介し、COP28でもPRできそう。今回のUAE訪問で日本側の関係者から英語の勉強を勧められ、この年になって英会話教室に通い始めた。スムーズに話せるよう頑張りたい」

（聞き手 一川孝文）



ムハンマド大統領（右）、岸田首相（左）と共に記念写真に納まる水木社長

アラブ首長国連邦

（聞き手 一川孝文）